

木のゆくえ

木構造セミナー / 講演会

14:00 開場

14:30 開演

講演  
質疑応答  
意見交換

17:00 終了

## 「木材の流通と品質とコスト」

講師 / 能口秀一 氏 (木材コーディネーター)

2014年 4月 23日 (水)

ところ / 姫路じばさんびる 9F (定員 100名)



「大部分が森林で、すぐそこに木はあるにもかかわらず、なぜか遠くに感じる。  
その背景を知り、木の有効活用を探ってみたいと思います」

◎主催：株式会社 兵庫確認検査機構

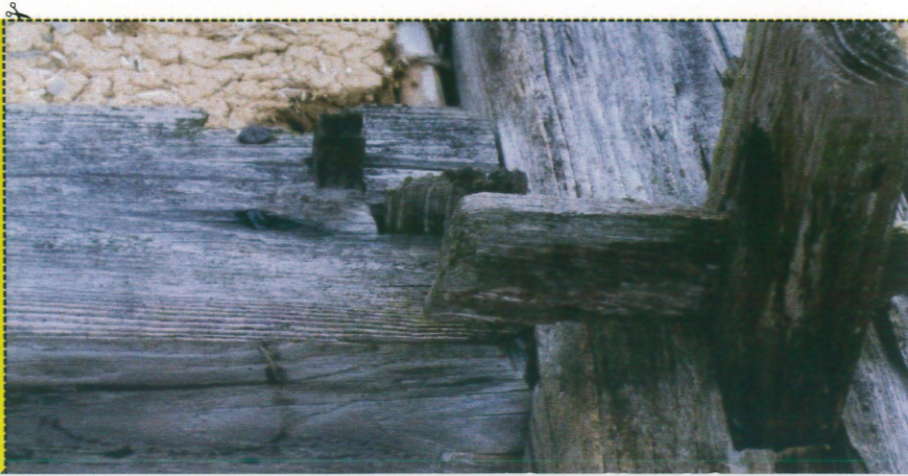
◎お問合せ：加古川支店 稲岡

TEL:079-424-9001

FAX:079-424-9010

mail:inaoka@kakunin.co.jp

※申込・地図・プロフィールは裏面参照 (参加費無料)



木材コーディネーター

能口 秀一さん

編集委員  
インタビュー

地域の森と消費者を直結

優れた循環資源になるか、それとも災害の発生源となってしまうのか。地域の森は最も身近な環境問題だ。地域の木で地域を建てる、という思いの流れる「NPO」開催は始まらる。

戦後大量に植林された多くの木々が活用されず過密化し、荒廃が進む日本の森林。土砂災害など環境への悪影響も懸念される中、木の地産地消の再生による健康な森づくりに取り組んでいるのが、丹波市を拠点に木材コーディネーターとして活動している能口秀一さん(45)だ。良質な立ち木と消費者を直接つなげ、森の手入れが続けられる適正な価格で流通させることで、森を次世代に引き継ぐ責任を確立したいという。

「木材コーディネーターとはどんな職業ですか。」  
「地域の森と、地域の木で家を建てる。消費者には実際に森に入ってもらい、目の前にある立ち木を使って家を建てるのが森づくりにつながることを実感してもらいます。こうした立ち木販売を可能にするには、製材、加工、建築など森から家づくりまでの各工程についてよく知っていて、関係する業者と緊密な連携が取れる能力が必要ですね。」  
「この仕事を始めたきっかけは。」  
「長年手入れされてきた森には、良質な木が少なくあります。しかし、以前、製材会社に行くと、多くの所有者や林業家は流通が見えにくく、木の価値に見合った価格で流通せられずにいることを知りました。今、日本では海外の木材が手に入りやすく、パルプや合板の原料にする低価格の国産材需要が高まっています。このままでは売れない良質な木も低価格材に流れてしまえば、森の所有者が手入れる費用も得られなくなる。品質の高い木を育てていくという価値観すらなくなってしまう。」  
「木の流通は、森林所有者から製材、市場、製材、加工間

木の地産地消 どう再生？

豊かな資源 次世代に

「まず森の所有者と二種に立ち木一本ごとに場所や、太さ、傷、曲がっている部分などを調査し、計画的に活用していくためのデータベースを作成します。そして、住宅などの注文が入ると、森にあるほかの木を生育まで考慮して、条件に当てはまる木の中から伐採する本を施主を選んでもらいます。一番太い部分から梁や柱にする部分を切り取り、残りを屋根や下地に使

「これまでの活動は。」  
「森づくりに意欲のある所有者が持つ多可町加美区の森林で立ち木コーディネーターを養成し、その立ち木を使う販売システム(これまで16軒の住宅を建てました。このほか、地域の道路工事で伐採する木を使った交流施設など二つの施設の建設をコーディネート

■のぐち・しゅういち  
1965年、石川県生まれ。立命館大学卒。製材会社を経て2004年、木材販売や建築設計を行う有限会社ウツスを設立し、木材コーディネーターに。09年、森林保全の啓発などを目的としたNPO法人サウンドウツスの副代表に。丹波市在住。



しました。森林資源を持っている市町は多いのですが、地元の利用率は低い。子どもや住民の循環型社会への意識を高めるために、こうした施設を地元でそれぞれ持つべきだと思います。」  
「文化財にも目を向けられていますね。」  
「文化財の改築の場合、特に関心が必要ですね。日本は天然林にあつたものをほとんど使い切つてしまひ、外国のいい木を探して使つてきました。今後は手に入りにくくなります。そこで、植えてから百数十年以上たったスギやヒノキの人工林を保全してどう使うかという動きが京都では始まっています。ここで、住宅で培つたシステムを活用して、森づくりに貢献したい。」  
「消費者に伝えたいこと」

◆参加申し込み要項

下記に記載の上、お問合せ先へ FAX か E-mail 下さい。

氏名	
社名	
TEL	
FAX	
E-mail	

※案内

